

長野県の子どもの自殺の現状と課題 ~今、私たちにできること

全国の自殺者数は減少傾向でしたが、令和2年は増加に転じています。児童生徒の自殺者数は減ることなく、平成28年から令和2年にかけて増加し続けています。県内では未成年者の自殺死亡率が全国の中でも高い水準にあり、子どもの自殺対策は喫緊の課題です。

本講座では、長野県の実態と対策、また私たちがゲートキーパーとして、「気づき」、「傾聴」、「つなぎ」、「見守り」ができるようになるためにはどのようにしたらよいか。清水氏は事例を踏まえての現状と「大人自身が困ったときはSOSが出せることが子ども達を救うことにつながる」と熱く講義していただきました。(受講者数 90人)

〈講座内容〉

【説明】説明「長野県の子どもの自殺の現状及び対策について」

講師 長野県健康福祉部保健・疾病対策課 松本 康一 氏
講義「大切な人の悩みに気づく、支える私たちにできること
~あなたもゲートキーパーに!~」

講師 長野県精神保健福祉センター 荻澤 歩 氏

【講義・質疑応答】「子どもの自殺の現状と対策の課題
~今、私たちにできること~」

講師 NPO法人自殺対策支援センターライフリンク
代表 清水 康之 氏



ゲートキーパーとは
身近な人の自殺の危険を示すサインに
気づき、見守りや、必要に応じて、専門
機関へつなぐ役割が期待される人
誰でもなることができます

RAMPSのモデル実施
RAMPSとは
ORAMPS (Risk Assessment of Mental and Physical Status) = 心身状態の評価
タブレットで質問に回答していくと、「リスク評価」と「対応内容」を表示するシステム
主な流れ
1 保健室に来た生徒が、RAMPS入りのタブレットで質問に回答[1頁につき1問]
2 回答を基に養護教諭が問診
3 本人の回答結果と養護教諭の問診結果を基に、システムが自殺リスクを総合評価

LIFE LINK
SOSの出し方に関する授業例
自分を大切にしよう
~「助けて」と言える勇気を持てるように~
NPO法人 ライフリンク
清水 康之

受講者アンケートから

- RAMPS導入についてお聞きしたいと思っていた。(学校教職員・他1件)
● 長野県の自殺者数の数字、胸に刺さるものがありました。このような講座を受講した職員だけでなく、すべての教職員が共有し、心にとめるべき実態だと思えます。(学校教職員)
● 実際の子ども達の声も聞き、より一層、地域で生きることの促進要因を増やしていくことの大切さを痛感しました。(市町村職員)
● 実際の事例やSOSの出し方教育のやり方を知ることができた。私たちが人生の重ね方を子どもたちに見せることも大切だと思った。実際の業務に活かしていきたい。(学校教職員)
● 辛い思いや時間を共有まではできなくても、繋げることならばできるかなと思っています。(PTA)